

## 二宮町町民活動推進委員会 第5回委員会議事録

日 時：平成21年8月24日（水）16：00～17：30

場 所：社会福祉センター2階・2Aクラブ室

出席者：山内委員長、高橋副委員長、岡野委員、奥委員、関野委員、武井委員、手塚委員、  
西山委員、山口委員、小林委員

欠席者：西方委員

事務局：安部課長、西山班長、後藤主事

傍聴者：なし

配布資料（当日配布）

- ・会議次第
- ・資料1・・・平成21年度補助金実績報告について
- ・資料2・・・平成21年度協働まちづくり補助金制度の改善点及び  
次年度の方向性について
- ・資料3・・・平成21年度補助金交付団体活動現場確認について
- ・その他資料・・・平成21年度協働まちづくり補助金交付団体決定広報掲載文

### 1．開会（安部課長より）

### 2．委員長あいさつ

会議が円滑に進みますようにお願いします。

（事務局）今回の議事録署名人については山内委員長と岡野委員になります。

### 3．議題

（1）平成21年度補助金実績報告について（資料1）

（事務局）今年度の協働まちづくり補助金のプレゼンテーションも各委員の協力のもと交付決定額が決まり無事終了し、各団体には補助金の交付をしました。町民の方にもホームページや広報を通じて周知をしました。また、今年度の補助金交付団体については次年度に補助金実績報告がありますが、今年度の内容を踏まえて次年度どのようにするかということで資料のような提案になります。

（1）報告書の記載内容として、「活動の記録」及び「事業に対する全体的な自己評価」を記載するようになっていましたが、審査基準にもなっている「事業の公益性という観点から、町民の利益につながった点」「事業の継続性や発展性という視点から、次年度以降の計画」について追加記載をしてもらう。団体によっては、実績報告の中でしっかり発表される団体もありますが、補

助金制度の重要な部分になり、各委員からも多く質疑されている点でもあり、より明確にする意味でも記載内容の追加の提案になります。

( 2 ) 報告書の決算書における予算額の記載については、補助金申請時の際の予算額から、実際の補助金が確定した後の予算額に合わせて記載してくる団体があり、実績報告の際に混乱した経緯がありました。補助金の実績報告については当初補助金申請時の予算額を実績報告の際にも記載するというところで徹底するとの提案です。

( 3 ) 補助金団体数に伴う次年度報告会の開催時間についてですが、今年度は補助金の交付団体数が 6 団体になりますので、次年度の報告会はコンパクトになります。そこで、午後からスタートすることも踏まえた開催時間に伴う 2 つの提案になります。

( 委員長 ) 次年度の報告会はいつを予定していますか。

( 事務局 ) 来年度 5 月を予定しています。

( 委員長 ) 事務局から提案された件について、ひとつずつ確認をします。( 1 ) 補助金交付に伴う審査基準の具体的な記載についてです。

( 委 員 ) 団体によっては、補助金の活用報告の説明が曖昧で協働の趣旨から外れているような内容の報告も見受けられた。

( 委員長 ) そのような点も踏まえ、事務局より補助金の活用について詳細に報告を記載してもらおうとの提案になっていると思います。

( 委 員 ) ( 1 ) の変更で今回 2 項目が増えるので、5 項目目の収支決算書も含め項目のみを示す表紙を作成し、内容は別紙扱いにして自由に書けるようにしたらどうか。

( 委 員 ) 書き方については箇条書きで分かり易いようにして欲しい。

( 委員長 ) 検討課題にします。( 2 ) 報告書の決算書における予算額の記載についてです。

( 委 員 ) ( 2 ) について収支決算書の科目について、備考その他付記事項とあるが通常は摘要などであり、積算根拠などが書かれると思う。また、欄外に添付書類領収書と記載してあるが、領収書として見合うものは認めないのか、領収書が出ないものも考えられる。

( 事務局 ) 記載科目については、以前から同じ書き方をしていますが、団体の方で積算根拠等の記載内容については理解をされていた経緯はありますが、分かり易くということであれば変更します。また、領収書については、実際、原本を提出してもらい担当の方で帳簿と照らし合わせて確認をしています。

( 委 員 ) 領収書があるものは良いが、交通費など領収書が出ないものもあるので領収書に代わるものも含め領収書等にしたらどうか。

( 委員長 ) 事務局の方で検討をして下さい。なお、( 3 ) 次年度の報告会の開催時間については、先ほど来年度開催とのことですので次年度の委員の中で、出席者が多くなる方で 2 案の中から決めてもらうということにしましょう。

( 委員一同 ) 異議なし。

- (委員) 収支決算書の中で、食糧費はやはり外した方がいいのではないか。
- (委員長) 食糧費については、以前にも議論し必要最低限の範囲内で金額等も決め必要経費として認めた経緯がありますので、実際に使った団体は領収書も提出してもらいますので記載してもらおう方がよいと思う。
- (委員) 食糧費については、委員会でも細かく弁当、飲み物はいくらまでと決めた経緯があり、申請して認められたものについては構わないと思う。
- (委員) 過去において子育ての団体で食糧費が計上される団体が多かったが、それ以外の団体では、食糧費を計上してくる団体は多くないと思う。
- (委員) 必要最小限で認めているので、経費から外すのはどうかと思う。
- (委員) 当初、食糧費を外した方がいいと言ったが、その後、金額設定等細かくガイドライン的なものが出来たので説明のつくものについては認めても良いと思う。
- (委員長) それでは、食糧費については今まで通りということで、次の議題に入ります。

(2) 平成 21 年度協働まちづくり補助金制度の改善点及び次年度の方向性について

(資料 2)

- (事務局) 昨年度も、改善点等について委員から意見をいただき、今年度の募集内容等にも反映をさせていただきました。今回も 7 名の委員より改善点があるということで意見をいただいたので必要な改正は考えていきます。  
資料 2 に基づき、「補助金募集」、「プレゼン」、「その他全体的にみて」について順次各委員から挙げられた意見を発表。
- (委員長) 次回から、ひとつずつ議論して詰めていきたいと思いますが、何か事務局の説明に補足がある委員はいますか。
- (委員) 昨年度、収支予算書の見直しを行い、補助金申請に関わる部分と団体全体の流れが分かるような収支予算書という形で分けたが、逆に分かりづらくなったような気がする。補助金申請の為の様式になると収入の予定がないと赤字収支になり、やってみなければ分からないというような意見も団体から出たが、その穴埋めという形で会費等会全体の収入状況など全体を一覧で見たほうが分かり易いので、以前の様式に戻した方が良いということで改善点に出しました。
- (委員長) 他にありますか。
- (委員) 発表時間については、時間を設定しながら時間オーバーして発表している団体があり、それを認めることはルールを守っている団体に対して不公平になる。鐘を鳴らして知らせているので、それを守らなければ強制的に中止するなど募集の段階からプレゼン方法については、申請団体に周知する必要があるので改善点を出しました。
- (委員長) プレゼン時の質問時間の設定や時間配分など含め、次回以降に委員の合意形成を図りながら議論していきましょう。

- (委員)過去のプレゼンでは、申請団体数も多く発表時間等も厳しく行わないと予定通り進まなかった経緯があるが、今回は申請団体数が少なかったこともあり、より団体のことを知ろうという意図もあり、審査委員である委員の質問も予定者以外の質問も可能にした。時間延長については事務局の判断で対処しても良いのではないか。
- (委員)厳しく言えば時間厳守が当然だが、申請団体数により前後はあると思うし、それ程個人的には時間がかかったようには感じなかった。
- (委員)当初より活発に活動していた顔の分かるような団体については大丈夫だと思うが、申請団体数が減少している中で、あまり厳しい制約を求めるよりは、このような補助金制度の仕組みづくりを広め、新たなボランティア団体の掘り起こしに繋がるようにしていく方が必要だと感じます。
- (委員)条例をつくり協働のまちづくりを立ち上げた時点では、ボランティア団体を育てて町を活性化してくれることに対して頑張っている団体を応援するとの趣旨でスタートしているので厳しく審査するのは当然だが、スタート支援団体のように慣れていない団体もあるので、多少発表時間などについては、努力をしないのはいけないと思うがゆるやかに見守るのも必要であると思う。厳しくしすぎて今後、新たな団体が出ないほうが町としては、打撃になると思うし、個人的には団体を応援するという意味合いで取り組んできた。
- (委員)当初は、協働のまちづくりということで町のために取り組むという姿勢があったと思うが、今はそういうものが曖昧になってきているように感じる。
- (委員)それではどうするかという中で具体的な協働の手法としては、団体の活動が町の総合計画等の重点項目のどの部分について行われているかなどを示す方法がある。これは、団体そのものをバックアップするという考えより、行政が担っている公共サービスを一緒に団体とやっ払いこうと考えている市、町などに見られる手法であり、二宮町の場合にも同様に感じます。だとするならば、協働のまちづくりの為に、先ほどの変更点でもあったが町民の利益につながった点や、町が目指している方向性のどこと合致するかを申請の前に聞く必要があるのではないか。そうすれば、審査する方や周りの方、町も分かりやすくなるのではないか。しかし、これが町にとって良いか悪いかは分かりません。
- (委員)結果的に団体としては、行政の下請け的要素が強くなり難しい面もある。
- (委員)手法としては先ほどのようなことがあるということであり、考え方として、協働とは役所に寄り添うということではなく、役所のやり方と町民の考えるまちづくりの合致する部分で交わればいいわけで、全然考え方が違っても通過するクロスする部分だけで事業を行うというイメージであり、手を携えて行う必要はないと思う。だから、補助金の交付も3年間というように時限があるほうがいいわけで、いつまでも、役所と共に事業をしていくと団体の思いがねじれて来て違う方向になり団体の継続性の面でも問題が出てくると思う

ので、上手くクロスする 3 年間で交わり、その後は団体の事業性を高めていくような育て方もしていく必要があるのではないか。

(委員) 各市や県でも協働提案型のような形で事業を行っているところもあります。

(委員長) 議論は尽きないと思うが、一つは、町の事業であり、町の方向性や考え方によって決まってくることもあるので、委員会はそれに沿った形で進めていく必要があると思う。つづいて次の議題に移ります。

(3) 平成 21 年度補助金交付団体活動現場確認について(資料 3)

(事務局) 平成 21 年度補助金交付団体の活動現場の確認については、以前に了承をいただき実施することになっておりましたが、今回は、各団体の具体的な活動スケジュールについて説明をし、各委員の現場確認希望先を募りたいと思います。各団体とも補助金事業の現場確認ということですが、自分達の活動を見てもらえるということで積極的に日程等の協力調整をしていただきました。

資料 3 に基づき、補助金交付 6 団体の活動日程について説明

(委員長) 日程が固まっている団体はいいが、毎週のように行っている団体については、委員がばらばらに行っても困ると思うが。

(事務局) まず各委員から団体ごとに希望を募り、希望先が決まった各委員には細かい日程について調整をします。

各委員より現場確認を希望する団体を募る

(委員長) それでは、議題は終わりましたので、その他になります。

(事務局) 3 点あります。1 点目は今年度、交付決定を受けた団体のうち 1 団体辞退がありました。2 点目は交付決定団体を町広報に掲載しましたので資料として配付します。今年度は団体数が少なかったこともあり、過去に活動内容が分かりづらいとの指摘もあったので活動風景の写真を載せました。3 点目は次回会議の日程調整になります。

次回会議は 12 月 2 日(水)になります。

5. 閉会(山内委員長より)

17:30 に閉会した。

議事録署名人 \_\_\_\_\_

議事録署名人 \_\_\_\_\_